

## 2016 年度入学式学長式辞

名古屋経済大学、名古屋経済大学短期大学部、そして名古屋経済大学大学院に入学されたすべての皆さん、ご入学おめでとうございます。このキャンパスの桜も、時を測ったように本日満開を迎え、皆さんの入学を祝い、前途を祝い、未来を明るく照らしているように思います。

本日ここに、ご多忙の中を皆さんのお祝いに駆けつけてくださった犬山市長山田拓郎様をはじめ多数のご来賓をお迎えし、また、これまで長い間、皆さんの学業を支えてこられた保護者の皆様多数が見守る中で、2016年度の入学式を挙げていきますことを大変嬉しく思います。本学を代表して、入学生と保護者の皆様に心からお祝いを申し上げ、歓迎の意を表します。本日から始まる皆さんの新しい日々が、それぞれの人生の中の実り豊かなひとつの時間となることを願ってやみません。

さて、この日を迎えるにあたって、皆さんは、これから始まる大学生活の目標や「大学でやりたいこと」を既に定めていらっしゃるでしょうか。

大学院へ入学の皆さんは、当然のことながらそれぞれの研究課題や学修の目標を立てておられると思いますし、人間生活科学部や短大保育科に入学の皆さんの多くは、既に保育士、管理栄養士など具体的な職業を目標として、学びの準備を整えていることと思います。しかし、一般的に言って、高校卒業の段階で生涯の仕事とすることを一つ決めるとするのは、簡単なことではありません。進学する大学や学部を選ぶのに苦労された皆さんも多いことだろうと思います。

入学した大学での学びを進めながら、自分の将来を、自分のキャリアを少しずつデザインしていくというのも、まっとうな考え方だと思います。もしもその途中でそれまでとは違った自分の道が見えた場合には、勇気をもって進路変更することもあります。これからの一つひとつの学びの積み重ねが皆さんの将来を形作って生きます。私たちは、そんな皆さんの歩みをしっかりサポートいたします。皆さんは、本学の教職員や先輩たちを遠慮なく頼りにしながら、着実な学びを進めてください。

皆さんが大学での学びの方向を考え、想いを固めるための指針として、ここでいくつかの問題を提起いたします。

皆さんは今日から大学・短大の「学生」です。中学、高校時代の皆さんは、教室で教えるを受ける「生徒」でした。しかし今日からは、「教えるを受ける生徒」ではなく、自ら学ぶ人、「学問をする学生」です。この後、皆さんを「生徒」と呼ぶ教員や職員があれば、ぜひ答めて下さい。どうか、この「学生」という自覚を持って、新たな学びに挑戦してください。名古屋経済大学は、皆さんの「自ら学ぶ」学びを全面的に支援します。

じつは、今の時代には、先生に教えられてたくさんの知識や技術を覚え込むことよりは、「自ら学ぶ」こと、あるいは「自ら学ぶことを通して、学ぶ力を身につける」ことが、ことのほか大事なのです。その理由をお話します。

今、世界は大きく変化しつつあります。経済の「グローバル化」と言われますが、ヒト、モノ、カネが国境を越えて活発に移動し、経済や社会の在り方がこれまでとは大きく違ってきています。地球の反対側の地域の出来事が、私たちの日常生活に直接影響を及ぼす時代——グローバル化の時代が到来しているのです。

また、2011年の東日本大震災と原発の重大事故を経験して、自然との向き合い方、科学技術の使い方、産業や社会のあり方を含めて「何が大切か」、「豊かさとは何か」にかかわる人々の考え方が大きく変わりつつあります。

さらに、皆さんのスマホの基礎になっている情報科学や、一昨年来、スタッフ細胞の話題で新聞紙上を騒がせた生命科学の分野をはじめ、科学や技術の進歩がいちだんと勢いを増してきたことを見ても、これは明らかです。今日、考えられないことが明日には実現するかもしれません。

したがって、これまで常識とされていた知識が役に立たなくなるかもしれないのです。このような変化の時代にあっては、「教えられて覚え込んだ知識」は役に立たなくなるかもしれません。

そうだとすれば、皆さんに必要なのは何だと考えればよいのでしょうか。皆さんに必要なのは、「役に立たなくなるかもしれない知識の詰め込み」ではありません。「変化の時代、予測困難な時代」に必要とされるのは、これまで出会ったことのない状況に遭遇した時に、そこにどんな問題が含まれているかを発見し、その問題を解決する糸口を探し出す能力です。

これを「学ぶ力・考える力」と言ってよいと思います。

さて、名古屋経済大学は、今年、創立 110 周年を迎えます。この大学の礎は、110 年前に市邨芳樹先生によって築られました。創立者である市邨先生は、本学の教育の理念、皆さんの立場に立って言うならば「学びの理念」あるいは目標を、「一に人物、二に伎倆」と説きました。私たちはこれを「建学の精神」として受け継いでいます。じつは、この「一に人物、二に伎倆」という「建学の精神」が、今日、この「変化の時代」に新たな輝きを持ちつつあります。

「伎倆」とは知識や技術のことを言います。「一に人物、二に伎倆」とは、学びの目標として知識や技術を豊かに蓄えることは大事である。けれども、それ以上に「人物」を磨くこと、「人間としての力を鍛えること」が重要なのだという意味です。先に述べた「自ら学ぶ力」は、この「人としてのその人の力＝人間力」の重要な一部なのです。「変化の時代」である今日、最も必要とされるのは「知識の量」ではなく、「学ぶ力・考える力」なのです。

ですから、これまでの「知識詰め込み」型の学び、受験勉強になじめなかった、自分は学力偏差値が低いと悲観している皆さんも、尻込みをする必要はありません。むしろ、新しい、この「変化の時代」を、自分にとってのチャンスだと考えてください。

また、もともと「学力偏差値」というのは、人間の能力の、ある時期の、一つの切り口であって、偏差値が低い人は「ダメな学生」ではないのです。人間の様々な能力の発達のスピードや、能力の開花のタイミングは、人によって違います。ですから、今、例えば「学力に自信がない」という人も、悲観することはないのです。

皆さんは『学年ビリのギャルが 1 年で偏差値を 40 上げて慶応大学に現役合格した話』をご存知でしょうか。この本はベストセラーになり、映画化されてヒットし、大評判になりました。本学は、一昨年春の後援会（PTA）総会・教育相談会の折に、この本の著者坪田信貴氏を招いて講演会を開きました。また、昨年秋の大学祭には、「ビリギャル」のさやかさんとその母ころろさんを招いて、トークショーも行いました。お出でいただいたみなさんもいらっしゃるのではないのでしょうか。

このビリギャルのサクセスストーリーに対して、「彼女はもともと頭力（あたまから）があったんだよ」という、ちょっとさめた感想もささやかれました。確かにそうかもしれません。しかし、そうだとしても、じつは多くの皆さんにも、その「もともと力」が隠れているかもしれないのです。ビリギャルのさやかさんは、一人の塾の講師との出会いがきっかけで、その力を目覚めさせました。「ふとした出会い」や「小さな自信」が、その「もともと力」を引き出す、思いがけないきっかけになるのです。

名古屋経済大学は、皆さんが「自ら学ぶ」ことを通して「学ぶ力」をつける、「隠れた力を引き出して、成長を実現する」、そんな学びのためのカリキュラムを用意して、皆さんの学びを全面的にサポートします。私たちは、「皆さんには大きな伸びしろが、成長の可能性が、備わっている」と考えて皆さんに接します。「成長できる名経大／あなたの隠れた力を引き出し、たしかな仕事につながります」という本学のキャッチフレーズは、皆さんには「もともと力」が隠れているという、私たちの確信に基づく発想なのです。

名古屋経済大学は、皆さんが「もともと力」を発揮できるような「ふとした出会い」や「小さな達成感と自信」を体験する機会が、少しでも早く訪れるように、皆さんを導きたいと考えます。

どうか皆さんは、今の自分に満足してしまわずに、思い切り背伸びをして、課題を見つけ、果敢に挑んでください。私たちは皆さんの背伸びに応じて、その限りない成長を支援します。本日、この日から、このキャンパスで、皆さんの闊達な精神が躍動することを期待して、歓迎の言葉といたします。